

研究契約締結に関する合意書

健祥会グループ創立 30 周年記念事業として、医療介護サービス向上のための基盤強化を図るべく、平成 22 年 10 月 25 日、徳島大学との間で委託（受託）研究契約締結に関する合意書に調印がなされました。平成 22 年 12 月 1 日～25 年 11 月 30 日の 3 カ年にわたり **〈1. 介護福祉施設におけるリハビリテーション〉〈2. 摂食嚥下障害と食事介助〉〈3. 認知症のケア〉** の 3 つのテーマで研究がすすめられます。

## 研究事業担当教授説明骨子

### 研究テーマ 医療・介護サービス向上のための基盤強化

#### 1. 介護福祉施設におけるリハビリテーション (医学部整形学科)

廃用症候群という、「ひきこもり」を研究のテーマとしたい。ひきこもりを予防するには外に出てもらわないといけない。我々には阿波踊り体操という体操療法があり、実践しているところだが、傾うつ状態が改善し、楽しい、友人が増えた等という効果が現れている。楽しく継続できる体操が開発できればと思う。リハビリテーションを担う言語聴覚士は嚥下、作業療法士は認知症の療法にも通じているので、理学療法士とともに、各テーマとの連携を図っていく。生命予後をよくするために、骨粗鬆症による骨折後の合併症の予防についても研究をすすめる。

徳島大学病院リハビリテーション部 高田信二郎准教授 談

#### 2. 摂食嚥下障害と食事介助 (歯学部口腔保健学科)

特に要介護状態にある高齢者の誤嚥性肺炎は高齢者死亡率の非常に高いパーセントを占めているが、口腔ケアをきちんとすることで、それを減らせるというエビデンスがある。しかし、口腔ケアを担える人材は不足している。多くの高齢者施設では常勤の歯科医師はいない。そのような現状の中で高度な教育を受けた歯科衛生士がその任を担えるように、大学を離れた所でもインターネットや画像でやりとりのできるようなシステムをつくっていききたい。健祥会グループにおいても、学士課程の学生とともに「お口の健康教室」をやっているが、その効果等を検証しさらに発展させていきたい。もう一つのテーマ・認知症についても、経口での食事はその予防にもなるので、テーマ間の連携を図っていききたい。

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部口腔機能歯学分野 中野雅徳教授 談

#### 3. 認知症のケア (医学部精神学科)

認知症の中核症状の部分については薬もできたが、それに伴う周辺症状、抑鬱や混乱等の対応が問題である。このような周辺症状については、予防することが大事で、それには関わりの対応、対処が必要であると思う。すなわちスタッフの教育が重要であり、認知症のプロフェッショナルの育成をめざす。認知症は生物学的、社会的にも課題があるが、社会全体で関わる問題として捉え、ケアの研究をすすめる。

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部精神医学分野 住谷さつき准教授 談

徳島大学との委託研究事業がスタートしました。医療に関する専門的立場からの基盤強化を図り、介護のさらなる高品質化を推進してまいります。研究の成果は速やかに健祥会グループ各施設の嘱託医・歯科医と共有し、さらには全国老人福祉施設協議会の会員施設へも届け、認知症ケアやターミナルケアの構築に役立てていただきたいと思います。

健祥会はこの連携研究のみならず様々な分野の専門家と手を携え、新しい介護技術の構築、快適な環境の創造などをめざし、心と科学で先進介護をつくりまします。



# 日本経済の再生あってこそその社会保障

## 人材開国と規制改革を

### 私はこの国の行く末を案じる

2050年、世界から、アジアから  
日本は取り残されてしまう

物流・エネルギー・情報通信・金融・流通も、そして社会保障においても、様々な規制が手かせ足かせとなり、透明で公正な市場の形成が阻まれ、日本の成長を停滞させています。また、法人税の高さ、EPAやFTAへの出遅れが国際社会における競争力低下を招いています。

経済成長あってこそその社会保障ですが、労働人口が減少し、経済も弱くなる日本では、2050年にはGDPは3%にまで落ち込むと予測されています。

看護師や介護士をはじめ日本社会に貢献する人材の受け入れや種々の規制改革をすすめなければ、日本は世界の成長から取り残されてしまいます。

この状況に危機感を持って日本経済を再生させなければ、社会保障の充実は望むべくもありません。

### インドネシア教育大学と学術協定締結 アジアとの介護人材交流をさらに推進

平成20年度よりインドネシア、21年度よりフィリピンからの看護師・介護福祉士候補者が来日し、各地の施設で就労開始しました。健祥会グループにもインドネシア50人、フィリピンから22人の介護福祉士候補者が国家資格取得をめざして就労・就学し、共生職場をつくっています。次はベトナムです。

さらに、介護福祉の分野において相互に交流を図り、教育・研究の向上に資するため、平成21年9月9日徳島健祥会福祉専門学校とインドネシア教育大学との間に、学術協定が締結されました。インドネシア教育大学は、インドネシア

で唯一、学士学位および修士学位に日本語教育課程を設置する大学です。健祥会のカリキュラムを基準として老年学を専攻する介護・看護研究プログラムが準備され、体系化されて開設の運びとなったものです。今後、健祥会ではこの研究プログラムを継続的に支援し、介護人材交流をさらに推し進めてまいります。



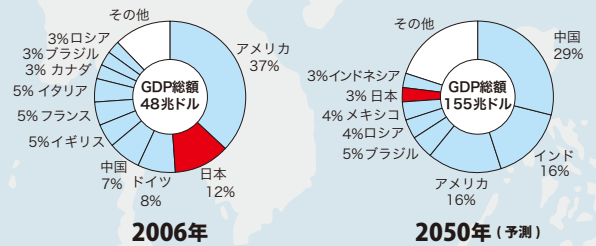
平成21年9月9日インドネシア教育大学  
スナリオ学長と協定書にサイン



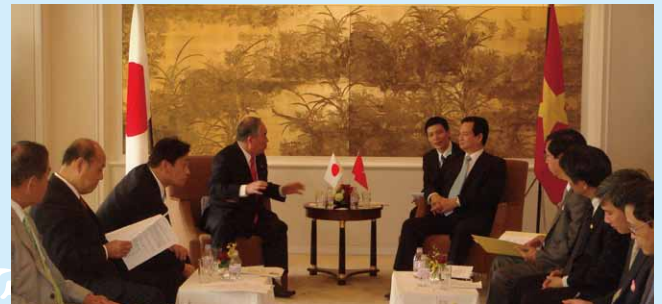
平成21年10月2日～7日ベトナム視察。  
グエン・ティ・キム・ガン労働・傷病兵・  
社会大臣とEPA「人の移動、介護人材の移動」  
について意見交換。

### 2050年世界経済は06年の3.2倍に成長 日本経済は大きく後退GDPは12%から3%へ

BRICs, Next11, 先進国における経済規模予測



出典：「More Than An Acronym(2007/3)」ゴールドマンサックス経済調査部



平成21年5月21日ベトナム・グエン・タン・ズン首相に日越EPAでの介護人材交流を提案

### 急速に高齢化する上海にも 日本の高齢者介護のノウハウを届けたい

平成22年9月19日、中国において、22.5%という突出した高齢化率を示す人口2000万人都市上海を訪問しました。介護の対象が300万人にのぼる上海市の90・7・3計画では、90%が



平成22年9月19日上海人民政府にて

家庭、7%が在宅サービス、3%が施設サービスの対象であり、9万人の施設が必要となる計算です。想像以上に高齢化の進む上海の介護福祉について、上海市人民政府の要人と協議し、日中の連携強化の必要性を痛感しました。

### APEC控え 各国首脳会見

## タイ、環太平洋協定に関心

### フィリピン 看護師受け入れ拡大を

【バンコク】高橋徹、マニラに連日タイのアピット首相とフィリピンのアキノ大統領は9日、横浜で開くアジア太平洋経済協力会議（APEC）首脳会議の出席を控え、それぞれ本メディア記者会見した。両首脳はともに貿易自由化を推進する考えを強調した。（関連記事8面）

「アピット首相はバンコクで、日本が協定開始を決めた環太平洋経済連携協定（TPP）について「どう発展していくかは非常に興味がある」と述べ、将来の参加検討に前向きな姿勢を示した。東南アジア諸国連合（ASEAN）加盟国ではシンガポール、ブルネイに続き、ベトナム、マレーシアもTPP参加を表明した。ASEANの5年以内の経済共同体発足を優先する」と語った。

「アキノ大統領はマニラで、「日本は少高齢化の問題を抱えており、看護師、介護士の需要は高い」と指摘し、日本との経済連携協定（EPA）による受け入れ拡大を要請した。

「国家試験が日本語で実施され合格が難しいため」「言語の条件緩和を求めると述べた。またフィリピンの鉄道や空港整備などで、「訪日中に日本企業の投資を誘致する」と語った。